

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200058		
法人名	有限会社 大矢野会		
事業所名	グループホーム おおやの		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上1520番地8		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4371200058&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成23年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カーテンではなく障子を取り入れ、和の雰囲気落ち着いた空間作りを心掛けています。談話室と台所を一体化することにより、入居者の状態を把握することが出来、すぐに対応できるようにしています。隣接の医院との連携により、日常的なりハビリ、夜間緊急時の対応に万全を期しています。また、家族とのかかわりを大切に、2回/年の家族会はもちろん、それ以外の催しの時も家族への声かけを行い協力を得る事ができています。退所された家族の方々の訪問、ボランティア等の協力もあり、継続的なかかわりをもつことができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する医院の院長はホームの代表者であり、日々の健康管理や緊急時の対応、終末期の医療・看護など、医院の機能を駆使した支援が得られている。院長は毎日ホームを訪れ、状況を把握。検査やリハビリ治療にほぼ毎日通院する入居者も見られ、密な連携が図られて、家族の大きな安心と信頼が得られている。家族の訪問時は温かくもてなし、話をゆっくりと聴くようにしており、また、敬老会や食事会等の行事日に家族会を開くなど、訪問を楽しんでもらう工夫により、家族訪問が多く見られている。家族と職員の信頼関係が強く築かれ、アンケートでも満足度の高い結果が得られている。退所後の家族とも、行事の手伝いや野菜の差し入れ、玄関を飾る風景写真の季節毎の交換等、長く交流が続いていることから、親密で良好な関係が作られていることが伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	敬う気持ちを忘れないよう心がけ、生活の中での不自由さや不安がないか、よく見て、よく聴いて、安心した暮らしが送れるよう理念にそったケアに努めている。	開設時に全職員で話し合い、分かりやすい文言にして、職員の行動規範となるようにと考え、作られた理念。カンファレンスや介護計画の検討会等で、必ず理念に立ち返り、職員の意識統一が図られ、実践に繋がられている。理念からは、入居者を敬い、一人ひとりの思いを大切にされたケアと、地域の中での安心した暮らしの支援が読み取れ、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容になっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア訪問や近隣への買い物、散歩時のあいさつ、また、年末に餅つきした餅と協力体制作りのお願いの文書を配布している。今後、担当スタッフを中心に案を出し合い、地域の行事の参加等交流へ努力している。	日々の挨拶や近隣商店での買い物はもとより、入居者と共に、雑巾や毛糸のたわしを作り、将来は住民や小学校にプレゼントすることを考えている。また、ホームの紹介と災害時の協力依頼を記載したプリントを近所に配るなど、熱心な取り組みが見られた。小学生のナイスライ訪問や近隣からの野菜の差し入れがあったり、退所した人の家族がボランティアとして度々ホームを訪れるなど、地域との繋がりを大切にされた取り組みの成果が随所に見られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティア、インターンシップや実習生の受け入れ時等、グループホームの目的や支援の方法について説明している。また、広報誌も配布し、地域の人々に理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議出席者がお互い意見交換、情報交換を行い、ミーティング時にスタッフに報告、話し合いをしてサービス向上に活かしている。また、昨年度より年2回の家族会と運営推進会議を合同で開催し、意見交換を行っている。	2か月毎に運営推進会議を開催、役場・区長・民生委員・家族の参加が得られている。3月と9月の会議は、家族会と合同で、食事会や敬老会の行事を組み合わせ実施しており、参加者が入居者・家族と直接触れ合い、互いに理解を深める機会となっている。会議では、活発に情報交換が行われ、火災時の近隣や地元消防団への協力依頼に、区長・民生委員の助力が得られるなど、安全確保に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に参加していただいたり、毎月のホーム便りを介護保険課窓口へ届け、利用者の様子や暮らしぶりなどを報告している。	介護保険関連の手続きで役場に出向くことが多く、その際にホームの状況を伝え、協力関係を築くよう心掛けている。役場の担当職員は数年毎に異動があり、継続した連携への努力が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等の参加により、スタッフ間の理解が高まり、玄関の施錠を含め拘束のないケアへの取り組みができています。帰宅願望時、外へ出られた時も納得されるまで一緒に行動している。	外部研修に参加後は、全職員に伝達講習を実施する仕組みがあり、身体拘束排除に関する教育が徹底して実施されている。不穏な様子の入居者への対応は、密な見守りで危険を回避し、見守りが手薄になりがちな居室には、センサーも設置されている。OJTで職員の技能向上が図られ、外出の気配を察知すると、傍に寄り添い、じっくりと話を聞くなど、気分転換を図る工夫が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や全体ミーティングで学ぶ機会を持ち、自分達の言動や対応を振り返ることができ、どんな些細なことも見逃さないケアに心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者の方もいらっしゃるため、研修等の参加やホーム内研修でスタッフ全員が理解し、活用できるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安がないよう十分に説明を行い書類一式を自宅に持って帰っていただき、十分理解してもらった上で契約を結んでいる。改定等の際は、家族会又は面会時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で担当者やスタッフとゆっくり話す機会を設け、意見や要望を聴きだす努力をし、ミーティング等で話し合っている。運営推進会議と家族会を合同で開催し、外部の方も含め意見交換ができる場も設け、意見箱の設置も行っている。	利用料はホームでの直接支払いの家族が多く、楽しい家族会の企画や、行事の手伝いを呼びかけるなどの工夫で、家族の訪問が頻回に見られている。訪問時は、お茶や菓子でもてなし、職員ともゆっくりと話せる雰囲気を作り、家族の意見を聞き取る努力が行われている。家族の思いは日々のケアに反映されており、家族アンケートからも高い満足が得られていることが受け取れた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを月1回開き、その後、各ユニットにてミーティングを開き意見を聴く場を設け、反映できるよう努めている。また、申し送り帳にも記載するようにしている。	「どんなことも全職員で話し合っ決めて」方針の下、全体及びユニット毎のミーティング、ケアカンファレンス等で、建設的な意見が活発に交わされている。浴場の手すりの位置や、入居者の身体機能に合わせた、車いすの改良等、職員の提案が採用され、サービスと生活の質の向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の中で把握に努め、色々な面で反映できるよう努めている。また、資格取得の申し出があれば、対応出来る職員配置・勤務体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて県の研修に申し込み、また、職員一人ひとりの状況により必要な場合は研修の声かけを行っている。連絡協議会等の研修は随時紹介し、参加後ミーティング時報告してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等いくつかの協議会に所属し、研修会等交流する機会はあるが、ネットワークづくりや相互訪問等の取り組みはできていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的にコミュニケーションがとれるようにし、信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安を取り除くよう傾聴し、信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の状態を理解した上で、その時の状況に適したサービスの説明、紹介などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と思い、敬う気持ちを忘れず、できることは手を出さず見守るケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告を送付し、状態を伝えている。面会や外出、外泊も協力してもらい関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや買い物、家族、知人の面会、外出、外泊の支援に努めている。	親戚・知人等の訪問時は温かくもてなし、ゆっくりしてもらえるように配慮し、訪れやすい雰囲気作りに努めており、訪問が数多く見られている。帰宅を希望される入居者への対応は、家族の協力を促し、送迎して、自宅でのひと時を過ごしてもらうなどの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守り、気配りを行い、孤立しないようスタッフが間に入ったり、利用者同士の場所を変えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合は面会に行ったり、また訪問しやすい様声かけをしている。ターミナル後の家族の方にも、ボランティアとして支援していただき感謝している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から本人の希望、意向を把握できるよう努め、カンファレンスなどで検討している。	家族状況やこれまでの暮らしを熟知し、本人の何気ない言葉や行動から、真意を汲み取るよう努めている。また、言葉で伝える事ができない人には、僅かな表情の変化も見逃さず、思いを察知する努力が払われている。入浴時は会話を楽しみ、ゆっくり入ってもらう中で、意向を聞き出す機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人、家族、知人との会話の中で把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、経過記録、排泄チェックなどで現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスなどで現状の共有をし、より良いケアができるよう理念に基づいた介護計画を作成している。	入居者の日々の様子がケース記録に記載され、モニタリングに活用されている。毎日の申し送りやカンファレンスで、本人の思いを尊重したケア方針が検討され、家族の訪問時には要望等を聞き、介護計画が策定されている。介護計画は本人・家族・職員で話し合っ作製する仕組みが作られており、家族アンケートでも「介護計画について説明を受け、一緒に話し合っている」と、全家族が回答している。	記録類は丁寧な記載が見られたが、ケース記録に入居者の言動や表情等を更に詳しく記載されると、ケアの振り返りが深まり、より上質なサービスに繋がると考える。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、ひやりハット、申し送りノートなどを日々チェックし、情報を共有し、活かす努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるよう方法を考え、柔軟なサービスを提供できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が難しいが、出来る範囲で支援するよう努めている。スーパーへの買い物や散歩等近隣の交通量が増えてきた為、事故がないよう安全に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、隣接病院が主となっており医療連携体制がとれており、必要に応じて専門医の受診など相談、紹介がスムーズにできる体制を整えている。	隣接する病院の院長はホームの代表者でもあり、協力病院として、24時間の緊急対応や月2回の定期訪問による診療、毎日の通院リハビリ治療に当たる他、必要時は看護師が処置に毎日訪れるなど、密な協力体制が築かれている。入院による環境変化は入居者の混乱を招きやすい為、院長のバックアップの下、ホームでの医療・看護が実施され、不安の軽減で回復が早められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックで体調を把握し、異常がある場合は、病院へ連絡できる体制作りができています。夜間は特に相談や指示がうけられ安心。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、できるだけ様子を見にいくようにして病院関係者との情報交換や相談に努めている。必要な時は、カンファレンスに参加したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に向けた方針について書面で確認している。状態に応じ、家族、病院、スタッフと検討会を開き、本人、家族の意向に添えるよう支援に取り組んでいる。	重度化と看取りに関する指針を作成し、家族には丁寧に説明して、意思確認が行われている。これまでに1名の看取りを経験しており、職員教育を徹底し、病状変化の都度、家族・医師・看護師と話し合いを重ねながら、尊厳ある穏やかな看取りが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その時々で行っている状態なので、勉強会をして実践力をつけるよう努力する。定期的に研修会を行うよう予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を重ね、徐々に身につけてきていると思う。今後は、地域との協力体制を築くよう努力する。	年2回の避難訓練は消防署の指導の下、入居者参加で実施されている。周囲は官公庁や店舗が多く、昼間は協力者を得やすいが、民家が少なく、住民も高齢化しており、夜間の協力が得られにくいことから、夜間想定訓練を行っている。訓練の度に避難までの所要時間が短縮されており、訓練の成果と思われる。	既に地域への協力依頼が行われているが、訓練への参加も呼び掛けるなど、更に具体的な取り組みが実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬う気持ちを忘れず言葉かけや対応をしている。排泄汚染時も以前よりは、さりげない対応がとれている。	人格を尊重する言葉かけや対応について、ミーティング等での指導や、介護場面での個別指導など熱心に取り組み、職員の意識が高められている。方言でないと理解できない入居者が多く、分かってもらえる言葉、親しみのある言葉使いを心掛けている。訪問当日も、方言交じりの温かい言葉かけや優しい対応に、穏やかな表情の入居者の姿が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人の意思を尊重できるよう声かけし、表情など観察しながら自己決定できるよう働きかけているが困難なことも多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、個々の体調やペースに合わせて、強制しないケアに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人にあった服をできるだけ着ていたり、出来る方には、見守りやさりげない援助をしている。イベントの時は、いつもよりおしゃれをされる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、代替食を準備したり、好みのメニューを取り入れたり、できる方は軽作業など一緒に取り組んでいる。	「美味しい食事を提供したい」と、専任の調理担当者2名を配置し、医院の管理栄養士の献立を参考に、入居者の好みに合った食事が提供されている。職員も食事を共にし、さりげなく介助しながら、会話が交わされ、和やかな雰囲気のある食事風景があった。入居者と一緒にのおやつ作りや餅つき、誕生日には手作りのケーキ、時には外食に出かけるなど、食事を楽しむ工夫が多様に見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は一人ひとり必要な量を出し、水分量は毎日チェック表に書くようにして脱水をおこさないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人ができる所を把握し、それぞれに応じた口腔ケアをおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに声かけ、誘導、促しを行い、自立にむけ支援している。なるべく布パンツを用いるようにしている。	トイレは真紅のドアで分かり易くして、できる限り自分でトイレに行けるように配慮している。一人ひとりの排泄パターンや、その日の様子を見ながら、声掛けや介助を行い、自立支援に努力されている。トレーニングパンツや尿取りパッドは使用しているが、常時おむつを使用している人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分摂取、軽い運動、腹部のマッサージなど行っている。主治医と相談し、内服も併用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	強制せず、タイミングを合わせ入浴されるようにしているが、入浴時間は午後からにしている。	隔日の入浴を原則に、希望者には毎日の入浴支援を行っている。浴場にエアコンを設置し、快適に入浴できるように配慮している。保湿効果のある入浴剤を使用し、皮膚の乾燥と痒みの予防が図られ、香りも楽しんでもらえるようにしている。入浴を嫌がる人には、強制することなく、間合いを考え、対応する職員を変えて「温泉に入りませんか」など言葉かけを工夫して、気分よく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や意思にあわせ、安静時間をとれるようにしている。なるべく昼夜逆転しないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルしている。わからない時は薬剤師に尋ねるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のある方には役割意識をもって活かせるよう支援したり、買い物、散歩、ドライブなどで気分転換を図っているが、努力が必要。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できる機会がとれるよう支援したり、家族の方々にも協力してもらっているが、できない方の支援法を考えている。	日常的な散歩や、少人数でのドライブが頻回に行われ、景色を楽しみ、気分転換が図られている。年間行事に、全員参加の花見や外食などが計画され、入居者の大きな楽しみになっている。遠出を嫌がる人には、散歩や買い物への同行を促し、外に出る機会が作られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理しているが、小遣い程度自分で持っている方もおり、自分で買い物できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる方には、自由に手紙を書いてもらったり、電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に応じて壁飾りや写真の貼り換えを行っている。室温にも注意している。入居者の方に生け花をお願いしている。	高い天井で開放的な空間。自宅で花を育てている職員から、花の持ち込みもあり、生け花が得意な入居者によって、見事に生けられている。屋内のあちこちに花が飾られ、書道や絵画等の作品も掲示されて、明るい雰囲気になっている。リビングの大きなソファには、楽しそうに語り合う入居者の姿が見られ、居心地の良い暮らしが伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活の中で支障が出ない程度で自由に過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家族と工夫されたり、家族や知人の写真を飾ったりしている。危険な方もいらっしやるので飾り付けをしていない部屋もある。	ベッドは備え付けだが、テレビや筆筒、ソファなどが自宅から持ち込まれ、それぞれに個性のある居心地の良い部屋作りが行われている。家族の写真や小物が飾られ、温かみのある部屋が多く、余暇に自室で編み物をして過ごす入居者も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、各自の部屋はわかるようにしたり、転倒など防げるよう環境整備も工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200058		
法人名	有限会社 大矢野会		
事業所名	グループホーム おおやの		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上1520-8		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4371200058&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成23年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カーテンではなく障子を取り入れ、和の雰囲気落ち着いた空間作りを心掛けています。談話室と台所を一体化することにより、入居者の状態を把握することが出来、すぐに対応できるようにしています。隣接の医院との連携により、日常的なりハビリ、夜間緊急時の対応に万全を期しています。また、家族とのかかわりを大切に、2回/年の家族会はもちろん、それ以外の催しの時も家族への声かけを行い協力を得る事ができています。退所された家族の方々の訪問、ボランティア等の協力もあり、継続的なかかわりをもつことができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	敬う気持ちを忘れないよう心がけ、生活の中での不自由さや不安がないか、よく見て、よく聴いて、安心した暮らしが送れるよう理念にそったケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣世帯の方々との協力体制作りを築く為、年末に文書を作成し、入居者と一緒にホームでついた餅を添え配布し、今後も関係作りが継続できるよう、担当スタッフをきめ案を出し合うようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティア、インターンシップや実習生の受け入れ時等、グループホームの目的や支援の方法について説明している。また、広報誌も配布し、地域の人々に理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議出席者がお互い意見交換、情報交換を行い、ミーティング時にスタッフに報告、話し合いをしてサービス向上に活かしている。また、昨年度より年2回の家族会と運営推進会議を合同で開催し、意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に参加していただいたり、毎月のホーム便りを介護保険課窓口へ届け、利用者の様子や暮らしぶりなどを報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等の参加により、スタッフ間の理解が高まり、玄関の施錠を含め拘束のないケアへの取組みができています。帰宅願望時、外へ出られた時も納得されるまで一緒に行動している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修会や全体ミーティングで学ぶ機会を持ち、自分達の言動や対応を振り返ることができ、どんな些細なことも見逃さないケアに心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者の方もいらっしゃるので、研修等の参加やホーム内研修でスタッフ全員が理解し、活用できるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安がないよう十分に説明を行い書類一式を自宅に持って帰っていただき、十分理解してもらった上で契約を結んでいる。改定等の際は、家族会又は面会時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で担当者やスタッフとゆっくり話す機会を設け、意見や要望を聴きだす努力をし、ミーティング等で話し合っている。運営推進会議と家族会を合同で開催し、外部の方も含め意見交換ができる場も設け、意見等の設置も行っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを月1回開き、その後、各ユニットにてミーティングを開き意見を聴く場を設け、反映できるよう努めている。また、申し送り帳にも記載するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の中で把握に努め、色々な面で反映できるよう努めている。また、資格取得の申し出があれば、対応出来る職員配置・勤務体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて県の研修に申し込み、また、職員一人ひとりの状況により必要な場合は研修の声かけを行っている。連絡協議会等の研修は随時紹介し、参加後ミーティング時報告してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等いくつかの協議会に所属し、研修会等交流する機会はあるが、ネットワークづくりや相互訪問等の取り組みはできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に必ず自宅や施設及び病院へ出向き初回面接を行い、本人が困っていること、不安や要望に耳を傾けながら、今までの暮らし方や経過を理解し信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の対応の難しさや介護負担を十分に理解し、要望等を聴きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が今一番困っていることや必要としている支援を見極めた上で、サービスの説明や紹介を行っている。他のサービス事業所との連携や協力体制作りも築けるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に支え合う家族として、できる部分は一緒にしていただき、できない部分は介助して安心した暮らしが送れるよう支援している。それぞれの体調や能力に合わせ残存機能を活かす支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な近況報告だけでなく、本人の状況の変化や意向に応じて連絡をとり本人や家族に安心していただけるよう努めている。また、家族会や行事等も行い交流の場を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の面会時には居室でゆっくりくつろいでいただき、気持ちよく面会できるよう配慮している。自宅周辺や馴染みの場所へ本人の訴えや気持ちが動いた時に外出支援ができる体制を作りたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立感を与えないよう、共に一緒に暮らしていることを説明し、食事やレクリエーション等一緒にしていただき、馴染みの関係作りができるよう支援している。時折、認知症の為に利用者同士の口論があるが、スタッフの仲介でトラブルの回避はできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ボランティアで年末の餅つきに手伝いに来ていただいたり、自家製の野菜を持ってこられたりして関係は継続できている。隣接の療養型へ移られた方や家族とも時々係わりはもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の希望や意向が把握できるような環境作りやスタッフとの信頼関係作りに努めている。困難な場合はスタッフ間で原因や対応方法について検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常会話の中で若い時のことや仕事の様子、家庭のことなど伺ったりしている。これまでの生活にあった暮らしができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活リズムや本人ペースの行動状態を把握し悪い状態から良い状態に改善できるようにケアプランの内容の充実にも努めている。毎日の申し送りやミーティングにて、常に話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでスタッフの意見交換を行い、利用者本位の現状に即した計画を作成し、反映できるよう努めている。家族にも説明して意見を聴いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録の実践、申し送りノート以外にも、ヒヤリハット等で気づきを記入し、ミーティング時に情報を共有しながらスタッフ間で改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズに対応できるように支援の方法を考えサービスを行っている。必要時には家族の協力もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が難しいが、出来る範囲で支援するよう努めている。スーパーへの買い物や散歩等近隣の交通量が増えてきた為、事故がないよう安全に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、隣接病院が主となっており医療連携体制がとれており、必要に応じて専門医の受診など相談、紹介がスムーズにできる体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックで体調を把握し、異常がある場合は、病院へ連絡できる体制作りができています。夜間は特に相談や指示がうけられ安心。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、できるだけ様子を見にいくようにして病院関係者との情報交換や相談に努めている。必要な時は、カンファレンスに参加したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に向けた方針について書面で確認している。状態に応じ、家族、病院、スタッフと検討会を開き、本人、家族の意向に添えるよう支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その時々で行っている状態なので、勉強会をして実践力をつけるよう努力する。定期的に研修会を行うよう予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、入所者も参加し、様々な場所を想定し消防訓練を行い、徐々に身につけていくと思う。地域との協力体制作りを目標達成計画の一つとして挙げ、具体的な計画を立て取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族や知人の面会時は居室で会話できるよう対応している。オムツ交換や更衣時などは、必ずドアを閉めるよう配慮し、排泄確認は特に気配りを行い、耳元で伺うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で本人の思いや希望を引き出せるよう、言葉かけや意思確認ができるよう努めている。危険が伴う場合は説明して理解していただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながらも基本的な一日の流れの中で利用者同士のコミュニケーション作りや馴染みの関係作りができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老の日やクリスマスのプレゼントにスカーフ、靴下、肌着など身につける物をプレゼントして、おしゃれを楽しんでもらっている。頭にカチューシャもつけておられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が利用者にとって食べるだけの受身になっている場合が多い、準備や片付けなど利用者にもっと関わってもらえるよう支援していきたい。献立は一応決めているが、食べたい物や嗜好を聴き、変更できるときは対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフも一緒に食事を摂り、食事量や水分量を把握している。不足時はプリン、バナナ、飲むゼリーなどで補足している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行い、状態の観察や清潔保持に努めている。うがいができない方は、スポンジブラシの使用など一人ひとりの状態にあったケアを行い、必要に応じ入れ歯の調整に受診もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導やオムツ交換を行っている。トイレを気にして水分摂取をひかえる方がいらっしやるので、その都度、水分摂取の必要性を十分に説明し、理解してもらうよう努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、乳製品や野菜の摂取、散歩など声かけしているが、それでも対応ができない方は、下剤の使用で調整し必ず便の確認を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の入浴を基本としているが、各人の体調や希望に合わせて対応している。一人づつの入浴の為、いつも同じ順番にならないよう入れ替えたり、都合を聞いたりして不満がでないように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせての休息や下肢浮腫、腰痛予防のための休息を行ってもらっている。夜間は自分の生活リズムで休まれ、不眠の方は、眠剤の使用やホットミルクの摂取等で安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理はスタッフがを行い、毎回本人に手渡しして内服確認している。変更時は申し送り確認し、説明書もファイルしているが、薬の目的や副作用についてはあまり理解できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや花の水やりなど役割をもって手伝ってもらっている。ほとんどの方が、テレビの水戸黄門を楽しみにされており、番組がない時はビデオに撮り楽しんでもらっている。不穏の方も落ち着かれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望時や季節により初詣、花見、五橋見学などの外出支援を行っている。ジョイフルでの外食時は、日頃、外出を好まない方もパフェやカキ氷等喜んで食べられる。帰宅願望が強い方は、自宅周辺までドライブに出かけたり、家族の協力を得て、外出支援を行い落ち着いてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理し必要に応じて手渡し、好きなものを買いに一緒にでかけている。手元に持っていたい方は小額財布に入れて渡している。時々、財布がないと不穩になられることがあるが、一緒に探して安心していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への用事や帰宅願望時電話を入れさせて頂き、本人会話されその後スタッフが補足している。手紙を書く機会はもていないが、となりのユニットには手紙のやりとりをされている方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	節句や年間行事に合わせた飾り付けや食事等季節感に気配りしている。春に芽吹く山菜や野菜の皮むき等も手伝っていただき、家庭的な環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置をみんなで過ごせるスペースと少人数や一人で過ごせるスペースに分け、思い思いに過ごせるよう工夫している。特に席は決めていないが、自然と同じ場所に座られるようになり、それが馴染みの関係作りにもなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方からの花や昔の写真等飾っている。面会に来られた方と一緒に撮った写真も飾り思い出作りにも工夫している。担当を決め、居室やロッカー内の整理整頓にも気配りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりがわかりやすいよう居室やトイレ、浴室等、入口に大きく表示している。ホール内も各自身体状態に合わせた移動方法で安全に配慮している。		